

落水事故ケース 1 (テティス 4)

事故発生日時 2011年8月21日 午前11時10分
発生場所 小網代灯浮標沖 西南西 2.5M KFR 参加中
乗員 7名
落水者 I氏 59歳、ヨット歴40年 PFDはムストー社のフローティングジャケット

発生経緯

風向 NNE 風速 18kt、ポートタック、艇速 8.5~9.5kt、進路 165度。ジェネカーにて南西ブイを目指す。

Iがジブ揚げ作業のためスターボード・サイド(下側)からバウに向かう。そこにブローが入り、艇が大きくヒール、Iは転がるように艇外に放り出された。

艇長(ヘルムス)が「落水!」と叫び、直ちに艇を切り上げ(風向に対し60度)、ジェネカー・ダウンを指示、ヘルムスマン後方のライフリング(馬蹄形ブイ)をIに向かって投げる。クルーSにIの位置を確認し続けるよう指示、合わせてメインセールの引き込みを指示。

スターボード前部上段のライフラインが切れている(後で外れているとわかる)ことが分かった。ジェネカーの収容作業は3名、破けはしたが数分で完了。

エンジンをスタートさせ、ジェネカー収容とプロペラに絡むようなシートが無いことを確認できたところでギアを入れ、救助に向かう。この時点でIとの距離は100m程度。メインダウンせず、セーリングでアプローチ。一旦風下に向かい5艇身ほど超えたところで真上にいるIに向かって切り上げ。エンジンはニュートラル、届かない場合にギアを入れるつもりが行き足を抑えるためアスターンを使う。一艇身以内になるとヘルムスマンの位置からは落水者の姿は見えない、思い切ってぶつけるような気持ちで寄せた。

Iはスターボードサイドを流れるように寄ってきて、外れて垂れていたライフラインの端を自ら掴み、差し出したポートフックも掴んだがフリーボードが高く、引き上げようにも人力では簡単に上がらない。そこにクルーNIがスピンハリヤードの先をループ(輪投げ状)にしてIに渡し、その中に体を通すよう指示、両脇の下にロープをセット、ハリヤードウインチで一気にデッキまで引き上げ、無事救助終了。リタイヤして帰港。

救助所要時間 約10分間。

事故の原因

ライフラインの端末金具(フォークターミナル)のリングピンが外れた。現在は割りピンに交換。



落水者側の感想

- ・落水し頭を海面に出すまでの水中にいた時間がすごく長く感じた。
- ・ライフリングを投げ込んでくれた時、艇とのつながりが感じられ安心した。だからすぐにライフリングまで泳ぎ、それに掴まった。
- ・速いスピードで艇が自分に向かってくるとき、轢かれそうになるような恐怖はなかったか、の質問に対し、むしろ安心した、あのくらいの勢いで近づいて問題はなかったとの回答。
- ・引き上げに際し、最初に（人間の手やボートフックより）ロープを渡された方が良かった。

救助側の感想

- ・落水者のワッチは必須。
- ・ライフリングの有効性が確認できた。捜索者側からは、落水者がそれに掴まると馬蹄形の頂点が海水面から高く上がりよく視認できた。またオレンジ色は格段に視認しやすい。
- ・引き上げ法、テティス4は電動ウインチがあったのでハリヤードが有効だった。
- ・ライフスリングは今回使用しなかったが、引き上げ時に有効な使い方があったかもしれない。
- ・プロッターの MOB マーキング、国際 VHF の DSC 発信は今回行わなかった、夜間、冬季では最初に発信することも訓練しておく必要があると感じた。